

論壇

最大の理由は超低金利

菅総理の退陣表明を受けて株価が急騰した。株価は市場が予想する経済の先行きに大きく反応するものである。総理大臣の交代という大きな政治的な出来事で株価が高騰するのはおかしなことではない。元々、日本の株価は諸外国に比べて低めと言われてきたので、その遅れを取り戻した感もある。

ただ、市場関係者と話をしていると、こうした株高がいつまで続くのかということについては懐疑的な人も少なくない。少なくともこの原稿の執筆時点では誰が次の

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

総理になるのか分からないし、また日経平均が、この原稿を書いている現在の時点では3万円に届こうと変わっていくのかもしれない。変な表現で申し訳ないが、いまの株価が「地に足がついている」ようには見えないのだ。

元々、主要国の株価は实体经济と大きく乖離していると言われてきた。これは新型コロナウイルス

読者もいるだろう。ただ、これをバブルと呼べるかどうかは難しい。低金利というファンダメンタルズ(基礎的条件)を反映した正当な株価という見方も成り立ちうる。

こうした動きの最大の原因は、金利(利子率)が非常に低いとい

株価と将来の経済状況

の感染前から言われていたことだ。パンデミック(世界的大流行)が起き、株価は大きく下落の動きを示したが、それも一時的な動きであり、その後はむしろこれまで以上に株価が高くなった。

ウイルスが広がる直前の2020年年初には24000円であっ

うことがある。一般的に株価は金利に非常に敏感だ。金利が下がれば株価は上昇する傾向が強い。いまのようにゼロ金利あるいはマイナス金利という超低金利では、それを反映して株価が非常に高くなっていくのか、という疑問を持つ

てもおかしくない。バブルが起きているのか、という疑問を持つ

コロナ禍脱却回復期待

ただ、低金利だから株価が高くてもおかしくない、という状態が安定的とも思われない。株価と实体经济の間には大きな乖離が生まれていて、株価は金利の動きや政治的な変化など实体经济とは関係のないものによって大きく動かされて

株高はそんなものだと言われれば良いのだが、それも言っていられない。米国では、金融政策の引き締めによって金利が上昇する時期の思惑に株価は微妙に反応している。日本でも今後の政治の流れによっては、株価が大きく動く可能性もあるだろう。そうした変化によって株価が急落するようなことがあっても困る。

楽観的なシナリオがないわけではない。市場関係者の中には、現在の株高がコロナ後の経済の好調を織り込んだものであるという見方をする人もいる。株価は現在のみならず将来の経済状況を織り込むものである。その見立てが正しいことが証明され、实体经济が早くコロナ禍から脱却して順調な回復を示してほしいものである。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。